

へうげもの

Hyouge Mono 14

YOSHIHIRO YAMADA

Orube Furuta Satarou Ueda Sakusuke Kobori
Mitsunari Ishida Ieyasu Tokugawa



HYOUGEMONO SINCE 2005
MORNING KC
KODANSHA 2075

Hyouge Mono 14
山田芳裕
YOSHIHIRO YAMADA

MORNING
KC
2075



9784063870756



1929979005436

雑誌 42672-75

ISBN978-4-06-387075-6

C9979 ¥543E (0)

モーニングKC 講談社

定価：本体543円(税別)

ขุนพล โอริเบะ ฟุคุตะ มุ่งมั่นในอุดมคติเพื่อสงครามของญี่ปุ่นผู้พล่งไฟ

ในการรุกรานและมากไปตัวอีกโหล

ชายผู้มีได้ขึ้นชั้นความรอบรู้ทางโลกอันกว้างไกลจากอัจฉริยภาพของขุนพล

โมเนนากะ โอตะและเร็นนังซึ่งความกล้าหาญทางจิตวิญญาณจากท่านเซ็นโนริจิ

ศาสตราจารย์ทางซางซา เขาจึงมุ่งมั่นก้าวสู่เส้นทางแห่งการเป็น “เอียวเกะโมโนะ”

โพสสงครามกำลังถูกไขว่คว้า ขุนพลโอริเบะ ฟุคุตะ การรุกรานเข้าทำจัดตั้งกองพลต่าง ๆ

ตามกลางการของสงครามของฝ่ายกบฏ หลังจากจางกอลยุทธการรบที่โอริเบะ ขุนพลโอริเบะ

โพสการรบก็เคลื่อนทัพไปยังด้านตะวันตก

ช่วงเวลาที่การสู้รบที่ “เซคิโตะฮะระ” จะปะทุที่กำลังตั้งเจ้าโกลด์เข้ามาเกี่ยวข้อง

การเพาะพันธุ์ชาลี เอียวเกะและการคิดค้นน้ำยาเคลือบเครื่องปั้นดินเผาต่างก็เป็นเครื่องพิสูจน์ว่าความสร้างสรรค์ทาง

ศิลปะของโอริเบะพัฒนาจนก้าวกระโดดอย่างน่าอัศจรรย์

จะอยู่หรือจะตาย จะเป็นนักรบหรือเป็นศิลปิน นี่คือนิยามใหม่ของขุนพลฟุคุตะต้องเผชิญ!!

茶の湯と物欲に魂を奪われた戦国武将・古田織部。

天才・信長から壮大な世界性を、

茶聖・千利休から深遠な精神性を学び、

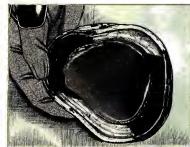
「へうげもの」への道をひた走る。

上杉征伐、石田蜂起、小山評定、家康ゴウエスト。

「関ヶ原」プレイボールの刻がひた迫り来る。

濃緑抹茶と緑釉出現、織部の数奇もジャイアントステップ。

生か死か、武か数奇か、それがますます超大問題だ!!



Orube
Furuta



Satarou
Ueda



Sakusuke
Kobori



Mitsunari
Ishida



Ieyasu
Tokugawa

Oribe Furuta
Satarou Ueda
Sakusuke Kobori
Mitsunari Ishida
Ieyasu Tokugawa

へうげモノ

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE.

KODANSH

Hyounge Mono

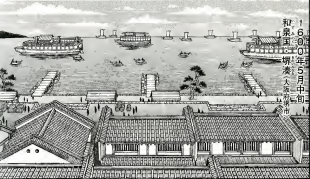
ขุนพล โอริเบะ ฟุรุตะ นักรบในยุคแห่งโศกเศร้าของญี่ปุ่นผู้หลงใหล
ในการชงชาและมากไปด้วยกิเลส

ชาอูญี่ได้ซึมซับความรอบรู้ทางโลกอันกว้างไกลจากอัจฉริยภาพของขุนพล
โนบุนาเกะ โอตะและเรียนรู้ถึงความลึกลับทางจิตวิญญาณจากท่านเซ็นโงะ
คำสวดแห่งการชงชา เขาจึงมุ่งมั่นก้าวสู่เส้นทางแห่งการเป็น “เขี้ยวเ
โศกเศร้ากำลังลุกโชน ขุนพลโอเอียสุ โทซูกาวาระบเร้าทำจัดยุคของม
ห้ามกลางการก่อสร้างสงครามของฝ่ายกบฏ หลังวางกลยุทธการรบที่โอเอียมา
โทซูกาวาระก็เคลื่อนทัพไปยังด้านตะวันตก

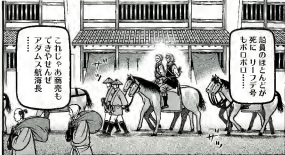
ช่วงเวลาที่มีการสู้รบที่ “เซคิเกะฮะระ” จะปะทุก็กำลังสืบเข้าใกล้เข้ามา
การเพาะพันธุ์ชาลีเขียวเข้มและการคิดค้นน้ำยาเคลือบเครื่องปั้นดินเผา
โอริเบะพัฒนาแบบก้าวกระโดดอย่างน่าอัศจรรย์

จะอยู่หรือจะตาย จะเป็นนักรบหรือเป็นศิลปิน นี่คือปัญหาใหญ่หลวงที่ขุนพล

1600年5月中旬
和泉国堺湊（大阪府堺市）







船員のほとんどが
死にリーフデ号
もボロボロ……

これじゃあ商売も
できやせんぜ
アダムス航海長
……



そう語るな
ヨーステン

我々二人が
歩けるだけでも
商売の可能性は
ゼロではない

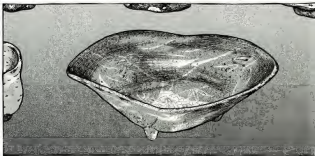
まあ、どこか國
へ行っても……

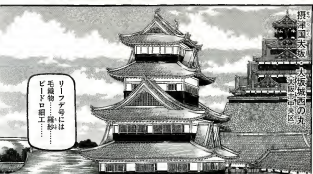
土地土地の神を
崇めなさやならん
のは面倒だが……



しかし
さすがに
流れた……

神ならぬ
金のために
東奔西走する
暮らしは……







そして 大量の
火薬と鉄砲……
十九門もの大砲まで
積んであります

確かに
海賊と見なしても
善し支えないかと



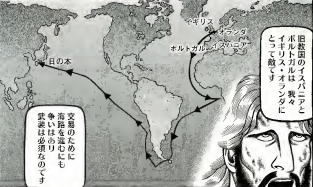
申し聞きは
あるか

ウィリアム・
アダムス
航海長



積荷は事実
ですが……

それて海賊と見なす
なら 欧州の情勢を
あまりに知らなすぎ
ます







良い質問
ですね



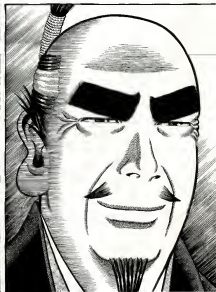
新教の
その方らは……

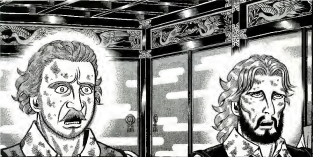
何を以て
欺びとしておる
のだ



理と経験を基に
新しき物を構築
してゆくのが
私の歡びです

船しかり
建物しかり
可しかり







華いあのアダム又は
種々な言葉を話せる……

あの者を保護する
として、イスパニア方
との係わりも
断ち切らない……

あちらはあちらで
優れた鉱山技術を
持っておるゆえのう

相州は相模川に置き
全ての南蛮国との
交渉を務めさせん



えらく
御氣に入りの
ようで……

まさかあの者を
江戸の町並りにも
係わらせようと
……？



これより、大変な
労苦が待っておる
のだ。忠告

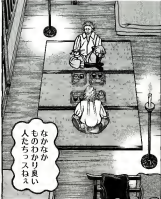
少しは楽しみも
ないと保たねわ





宇とはいえ
こんな立派な場に
移してくれて……

てつきり本と竹
だけの原始生活を
強いられると
想ってやしたか……



なかなか
ものわかり良い
人たちっスねえ



礼儀正しく
毎日をまて
質問攻めて……

答えればすぐに
理解する……

賢いと
言わせるを
得んな……



だとすれば
……

なぜあんな様を
見て笑っていた
のだ……

それがますます
気になる……









機軸を頼まれて
おる諸将の一覧ぞ

この数だけ茶を
点てると思うと
ちと気が滅入る
……



願なよのう

名を「上田彌因」と
改めては如何か

……
その文は？



やはり毛利様に
縁のある者が……

毛利様が石田派に
靡くだけで
形勢は逆転する
ゆえのう



これとは別に
茶会に招かれて
おつてのう

誰れの
……



愚が非でも
押さえておかん
……と

天守の件で
怒られておるだけに
機軸は難しそう
ですな

石田三成が兄
石田正澄殿よ

あの者の任地
堺奉行所にて
……な

まさか殺されは
すまい……

この際 石田派
との決別を
はっきりさせて
おかねばの

受けるの
ですか？

何卒
ご無事で

それがし来月には
戦備えに 越前が
領地へ戻りますが
……

それまでは叶う
限り 茶金の
手伝いをば





1600年6月初旬
和泉国・堺奉行役宅（大阪府堺市）



不思議よ
のう……

あの石田三成の
兄が、これ程の
茶室をこしらえて
いようとは……



一時は殿下の
御伽衆を務め



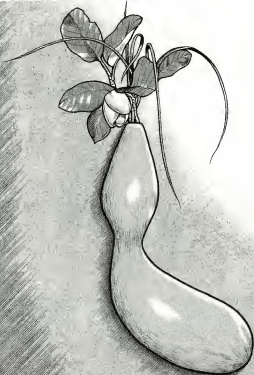
肥前名護屋城
山内丸の普請に
関わっただけの
事はある……

物にあの
「人のよ」を
模倣せしむ花入は
ていつた……



今まで見てきた
中で、最良の形で





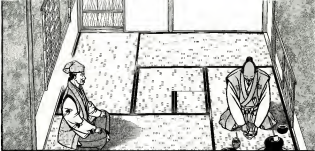
第百四十四席

My Brother MITZ











貴殿らと
上杉勢の仲が
割れる事は
今後もなからう

されば石田派に
与する事 強く
お断り致す



数奇に溺うた
陛下が世の再興
なのでござる……

たとえ上杉勢が
あの様な主張を
しておろうと……



あくまで我らが
目指す世は……

秀頼様を奉じた
豊臣の世なので
ござる……





三成殿に
お渡し下され



大坂城にて
上杉討伐の軍議が
行なわれていた

私は
これにて



賄物のわびた
小茄子にござる

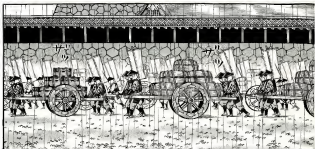
いきなり
ひょうけた物では
何なので……

まずはそれより
敵舟を解されよ
……と



世が変わり
お互い生き残って
おったなら……

それを用いた
茶に招いて
下され……と





御茶頭殿の儀柔を
以てしても
我らになびいて
くれぬ……

根氣強う
書状を送り
味方に引き込むほか
あるまい……

すると我らが
東へ向こうた後は
……

この伏見城の
周りに 味方は
いのうなるわけ
ですな……

そして
上杉討伐を断りし
石田氏は

そこでだ
鳥居元忠よ

伏見城が留守居
引き受けて
くれぬか

これを機に必ず
ここを踏として
来さう……



いかに堅固な
城であろうと

石田波の大军に
囲まれたら
終いであるう……



ここに
多くの兵は
残せぬ……



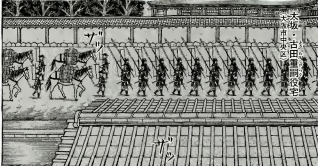
死んでくれ

この家康が
ために





大坂・古田重國役宅
大坂市中東区



うむ……

よいか
重國……

その方には
今度の戦が初陣
となる……



出陣の用意が
整いました
父上！

早うに伏見の
徳川軍へ合流
致しましょう！



覚悟はできて
おろうな？

死を間近に
しても
決して退くで
ないぞ！





承知で
あろうが……

今度は上杉討伐
より極じ……

石田派との
大戦になるやも
しれぬ……



この大坂として
戦場になりかねぬ
のだ……

頼む……

頼むぞ
おせん……



私として
武人が妻……

覚悟はできて
おります……







嘲笑われるは
慣れておるで
う

乙将だけに
……な

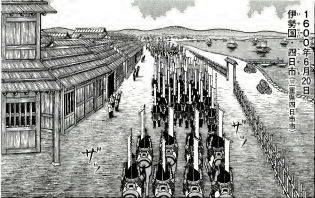


達者を
命ず!



第百四十四席 終

1600年6月20日
伊勢国・四日市（三重県四日市市）





お断り
致す

第四百五席

The Beauty Pair

同年6月21日 三河國
岡崎・知多郡・市

これはこれは
徳川様

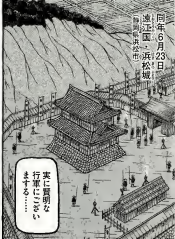
断る

御郷里三河へ
ようこそ

積もる話も
ございましょう

何卒この
田中吉政が預かりし
岡崎城へお泊まりを

同年6月23日
遠江国・浜松城
(静岡県浜松市)



実に賢明な
行軍にごさ
いまする……



各城での要所を断り
会津への目標を焼く
すれば……

その分、上杉勢は
戦備への暇が無
なりますからな……



それだけ
ではない

氏家も田中も
亡き太閤に深縁
ある者ぞ



西の丸天守が件で
反感を抱き……

遺教や遺言を
かかんとして
おつても、不思議
ではない……





作介っ

ほれっ



何用ぞ



何卒……

何卒 我ら父子に
西の丸天守が責を
取らせて下さり
ませ……



この作介
命に代えて
徳川様を御贖り
します!!

毒味はもちろん
矢や鉄砲の桶と
なります!!!

されば何卒
徳川様が旗の本に
それがしを……!!!



信用ならぬ











いや……
長延殿……

わざわざ美濃より
届けてくれて悪い
が……

伊達様のお金を落かし
粘薬にしてみましたの
ですが……

次は練習を
使って試して
みます……

餅やかな
練物どころか
「みちやあ」と小汚い
ぞこりやあ……



これなら今私が
遣らせておる
今焼の方がまし
ですぞ

そのうち 目を
見張るわび器を
ご置入れよう



それには武功を
上げて稼がねば
……

伴と共に上杉や
石田めを憎殺しに
してやり申す

昨年の襲撃の如く
終えぬようにな
忠興殿

前線の一部が
屈たれでは
金軍に響くゆえ
のう



申しますのう
有楽斎殿……

貴殿にしては
珍しう戦気に
満ちてござるか
……!?



遊びとはこれに
ござろう……!?

齢五十四では
床合戦にも
勝てなからうに

ほぞくな
古藤イ



我が大體は
徳川様にも
負けぬわ



舞もどろどろ
楽懸懸を決め込み
とうてのう……

仲の石高を増やし
遊び金を得るには
良い機会……

今度の有楽斎は
一味違うぞ

ホヤッ



もし徳川派と
石田派の大戦と
なれば……

我が美濃のみならず
九州は岸郷とて
巻き込まれるは必定

何とかせねば



同年7月7日 近江国
佐和山城(滋賀県彦根市)













1600年7月12日
安芸国・広島城（広島市の南東部）

どうか
ご決断下さい
毛利様

その安芸平蔵の
書状にもある
ように……

今 上方では
石田殿を中心に
反徳川派が決起を
控えております

もはや徳川が
横暴を許しては
おけません

毛利様のお力が
要否とも必要
なのです

例卒
反徳川
いや……

上方を含めた
西国全ての……



西軍の総大将を
務めて下さり
ませ



第百四十六席

エデンの東西



確かに徳川は
責められて当然
……

されど
討つとなれば
話は別……



……は
亡き殿下の
御遺言通り……

五大老五奉行の
合議にて
決めるべきぞ



それならば
話について
おります



は
……

母を徳川に
差し出した
前田利長殿までが
石田派に……!!?



五大老五奉行の内
石田殿が意に
反するは……

徳川と浅野
のみにござい
ますれば







それがしは
これにて

急ぐのう
増田殿

大坂へ戻るは
明願で良いでは
ないか



大谷殿は
徳川の怖さを
知っておるの
だろう……

徳川を討つに
正攻法では
勝てぬ……と



いまだ華兵の
備えが深れて
おるゆえ

カラッ



先に出した
書状が 現実
の事に……

ズダッ

この先も迷一
報ぜねば……



同月14日 越前國西方
上田主水正屋殿 御井井市

馬鹿な!!

先月大谷殿と
面会せし時は
.....

徳川様に加勢
せんと 確かに
申しておったぞ
.....!!!

お聴りは
こもつともです
が 上田様.....

我が殿とて熱座
の末 石田様と
志を一にせんと
決めたのです

ついでに越前の
諸侯に 衆らと
共に徳川を討つて
下さるよう.....

重頭領主
大谷古継に代わり
お願い申し上げ
ます

吾めると想う
か.....!!?



!! 出合え



我が首を御川に
差し出すなら
どうぞ……

ただし
その隙には
……



上田様の一喝を
大番衆が清しに
かかりましょう……

いえ
我が軍のみ
ならず……







家臣までも
犬死には
させられん

俺は
とるか……



上田様には
早速動いて
頂きます

座を
設んでもらい
かたじけなく



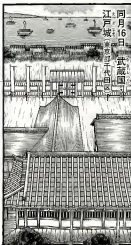




心得まし
た！

隙を見て 我らの
意と上方の情勢を
徳川様に伝える
のだ

よいが……



同月16日 武蔵国
江戸城（東京都千代田区）



決して……

決して江戸状の
如き 敵有無き世
にはさせぬ……

我が妻や北政所様の
杉原家とて 想いは
等しきはす……



その吉川らもろとも
心変わりしても
不思議ではない……

戦となれば
左様なものぞ

ならば
徳川様……

他の徳川派が諸將
も心変わりって
真の敵に……

さすれば上杉を
包囲す陣立ても
崩れますぞ









長門國の萩に
良い土を見つけた
らしいのでう

これなら井戸茶碗に
近き物が造れると
早速荒うしておるわ
!



朝鮮よりの陶工は
器造りに勝んで
おりますか……?

それぞれ
それを話した
かった!



それは石見銀山に
等しき金脈を
見つけましたなあ

当世に通用する
器になるか否かは
わからぬがの……



毛利様の懐王は
失敗したが……

何としても
我らとの
殺し合いは
避けない……





1600年7月17日

大坂城西の丸(大阪市中央区)

摂津国大坂

ひとつ！

諸大名に無断で
知行を与え
取り次ぎせし事！

ひとつ！

伏見城留守番役
を追い出し
兵を入れし事！

ひとつ！

大坂城西の丸に
勝手に居住せし
事！

ひとつ！

大坂城本丸の如く
西の丸に天守を
築きし事！

以上
十三ヶ条を以て
この毛利陣元

秀頼様に代わり
徳川を弾劾し
討伐令を発す！



第四百七席

Wild Wild Wife



前田利長殿の姿
が見えぬが……

北陣の備えに
忙殺され 今は
参られませぬ



出てきなされ
玉子殿!!

人質にとるとして
悪いようには
せぬ!!

同日 大坂の街道
井川忠興屋敷(大阪市中央区)



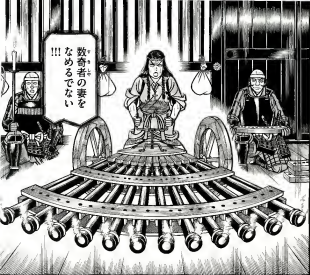
続けい!!!



もはや交渉の
余地なし……

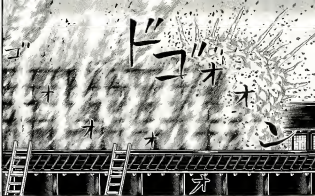
縛り上げてでも
大坂城へ連れて
ゆくぞ……









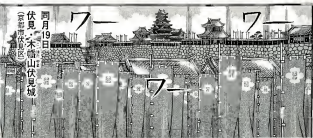




















貴殿に折り入って
頼みがある

天下分け目の
勝負を決定づける
重要な事ぞ



我らが石田派を
討ちに 西へ
向かえば……

東の上杉への
情えが諒かに
なる……

伊達や佐竹に
任してはある
ものの……



その事よ



佐竹殿がいつ
石田に寝返るか
わからぬ……と



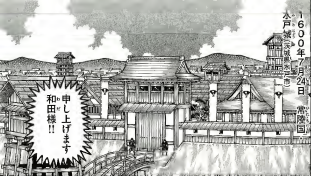


徳川の数奇に
関する一切を
貴殿に任す！

水戸へ赴き
この窮地を
救って下され
御茶頭殿！



1600年7月24日 常陸国
水戸城(茨城県水戸市)





第四百四十八席

オリベのアエアエ節







我ら佐竹勢も
遅れをとっては
いかん！

幸い徳川は、我らが
石田派と通じておる
事に気付いておらぬ
よう！



石田様らの大軍が
十九日より佐見城へ
攻め入ったとあれば

今頃はすでに
落城しておるやも
……

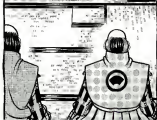


この地へ来たは
密かに上杉勢と
談合せんため！

今こそ互いに力を
合わせ 徳川を
討ちましようぞ
殿！！

徳川本軍が
西へ戻るその刻が
好機です！！











石田や上杉に
交われば、敵奇も
また疎かになる

疎かな世に
私は生きとう
ない



ズ
オッ

朱に交われば
朱になる……

徳川様は今後も
秀頼様を大事に
なさろう

敵奇においても
殿下の「素」が灯は
私が決して消させぬ

それでもまだ
豊臣の世がのうなる
と申すか……?

















※私塾の儀式等で餅が焼える現





かたじけのう
なる 義重殿
……

父子鬼の熱き
心も しかと
徳川様へ……



いいんだア
……

これで
いいんだア
……
断絶の心……



そして
助かりました
殿下……

今度の説得は
殿下が若き頃
……

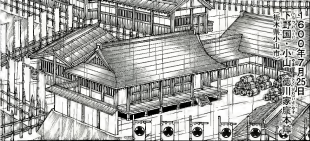
南無寺にて
オルガンの音を聞き
深したとの話を
伺うたればこそ……



楽器を借りた
有楽斎殿共々……

「楽」の灯に
油を注ぎ続けて
ゆきますれば

1600年7月25日
下野国・小山市
徳川家康本陣



鳥居よりの使者
が伝えた通り
……

上方では石田派が
伏見城に攻撃を
始めた



皆の妻子を人質
に取り、謀反を
起こしたのだ

今日……へ
集うてもろうたは
ほかでもない

我らが為す
べき事は……

ダアロ……





ダアロ
ちくしょ
.....

第百四十九席

戦い、隊GOGOGO!

たわけえ

男なら嫁に先立た
れても泣くな
細川たわけえ

殴り合うて
鎮まるなら
また相手になつて
やるぞっ



この家康 皆の
心中察し申す……

ゆえに
無理は申さぬ

妻子を想う者は
早う上方へ
戻るがよい

後に石田方に
付いたとて
私は恨まぬ









その正義に駆ら
るる心 しかと
引き受けた!!

これよりは
天下分け目の
戦ぞ!!







かつて殿下は
自らの亡き後は
貴殿の父が天下を
獲ると申したそうなの

なるほど
貴殿を見ておると
その氣持ちもわかり

有能さが
恐ろしくも
ある



さ……左様な
事は……



その恐ろしさが
今は心強い



私や貴殿が
戦にて死んだら

後は任せました
ぞ 黒田殿









この
細川忠興！

お玉のためにも
徳川様のため
にも……

石田らを
皆殺しにして
やり申す!!



石田が人質を
取った事で
……

遂にこちらの
結束が強う
なりました



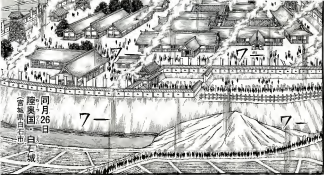
できればあの者ら
には 討ち死に
して欲しい

泰平の世に
猛者をぞ要らぬ
ゆえ

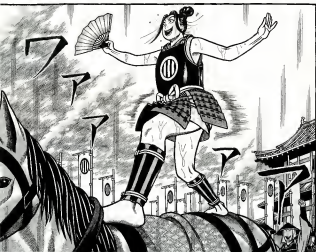


黒田も細川も
徳川への忠誠を
誓うして何より……













違う……!!

あたいを見る
目が断然
違ううう!!!

男姿って
そんなにいいん
だアアア!!



奥州道中
同月27日



古橋殿が「泪」の素杓
を位牌に見立てて
おるように……

それがしもこれを
お玉と見立て
肌身……



いや
羨ましい……

民影は徳川様には
もったいないと
想うておっただけに
……







果たして
俺は……

この力の
中で……



確かにこの
圧倒的な力は
信長公や殿下に
匹敵す……

されど何か
……

何かが先の
二人とは異なる
……



己が最大の
野心……

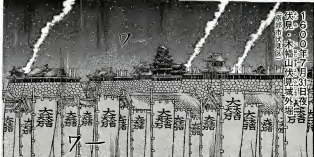
笑福の世を
実現できるの
か……



いや……
今は案ずるな
……

何としても次の
世に生き残る
のだ……!!

1600年7月31日夜
 伏見。木下・山伏見城外堀万
 石田三成



近江の新茶を渡す
ゆえ 鳥居の降伏
を誘うてこい！

それも叶わずば
四万の兵にて
総攻撃ぞ！

第百五十席

性の大魔神





茶で一息ついて
抗戦を考え直せとの
意にございましょう

まったく……
しやらくさい



この期に及び
何故茶葉を



鳥居様にはそれがし
持参の抹茶を飲んで
頂きますれば！



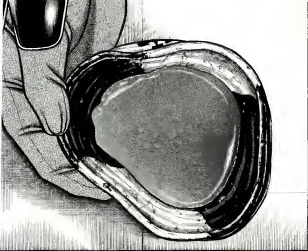
總務助様
ご注文の茶が

ついに完成に
至りました



石田めに
突き返せ！！

かような茶葉
では 寛げの
とな！！



濃緑い……!!

これまでの
青茶色ではのうて

まるで揃みたての
茶葉が如く濃緑い
ぞ!!

霞雲と露にて 茶葉に
日を当てぬよう育て

揃んだ新芽が熟さぬ
よう 灰汁に浸し
茹でる方法を用い
ました





敵が火を
放ちました
鳥居様!!

城門を破り
突入して
きまする!!!



渋ければ良いと
思っていた茶が
.....

何とまあやか
な.....



渋みの強い
「甲」の味も良い
ですが.....

これはこれで
真に「乙」な味
にて

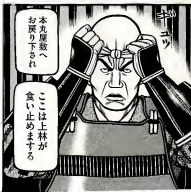


邪魔が入り
ましたな.....



今この一刻
.....

我らは
日の本一の城を
有す天下人ぞ



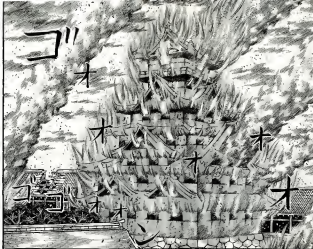
本丸屋敷へ
お戻り下され

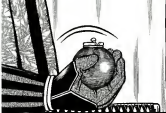
ここは上林が
食い止めまする



徳川幕すら
口にしておられぬ
最高の茶まで
味わい







我がもてなし
通じずか……



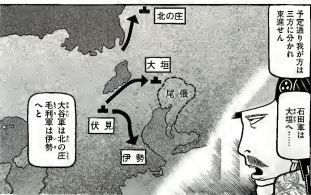
あい
わかった



伏見城が陥ちたとして
ゆるりとはしておれ
ませぬぞ……

家康はもう
我らの歩兵を
知っておりま
しょう……

早う東進し
徳川方の西上を
阻まねば……



北の庄

大垣

尾張

伏見

伊勢

予定通り我が方は
三方に分かれ
東進せん

石田軍は
大垣へ……

大谷軍は北の庄
毛利軍は伊勢
へと



徳川方が尾張まで
来るは おそろく
九月頭!!

数に勝る我らは
万全の態勢にて
迎え討たん!!



この先も
合戦圖を續け
ぞ

我ら西軍の
ありのまま
をな



買うてくれるなら
いかな軍でも
喜んで



良い幸祿を
描いたのう
又兵衛とやら

彩色すれば
石田様とて
高値で買うて
くれるわ

同年8月15日 尾張國
清洲城（愛知県清洲市）



今頃石田めは
脂汗を流して
おるわ！

徳川先発軍が
かくも早う尾張へ
入るとは……と
のう！



大垣城におる石田
に 大量の反物を
送りつけようぞ！

「汗ぬぐいに
どうぞ」とな
！

カ川



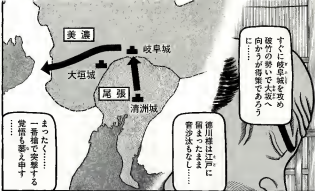
これこれ
福島殿っ

私に茶の湯の
腕を披露して
くれるなら……

せっかちに
ならず
落ち着きなされ

これは失礼
御茶願ひ……

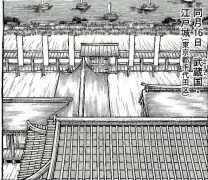
されど今 気が
迷らずに如何し
申す……？







同月16日 武蔵国
江戸城(東京都千代田区)



徳川様

徳川工作に
精が出ますな



ようやくと
加賀の前田が
徳川方として参兵
してくれたわ……

これで石田方は
相当に慌てよう
て……



明智様が秀吉に
敗れたは……

その強かなる
調略が及ばな
かったため

徳川様は
同じ轍を
踏まれぬよう

されど
天海備正……

これだけの書状
を認めても……

いまだ
私は怖い



いかに善の如く
必勝の軍略を
立てたとして……

戦では必ずや
不測の事態が
生ず……

島原様の決死の抵抗
にて 石田方の軍進
が遅れたも……

それに当たり
ましような









うむ……
来る！

半年も女子と
交おうておらぬ
身に……

この上のう
力が漲る気が
するわ！



もっしや

もっしや



貴殿も男なら
この大事さが
わからう



と……

徳川様の
申される胆力
とは……



この家族
勝利を手にする
その刻まで……

抱かぬ
挿入れぬ
気をやらぬ！

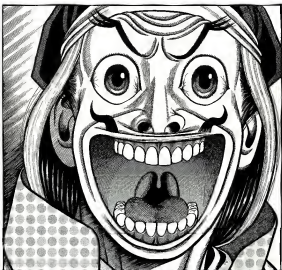
1600年8月20日
美濃国・久尻 安土・土岐市





第百五十一席

数奇と毒薬





両腕の袖で喝





我らが創らん
「ひょうげ」の象徴
たる器は……

斜めに見ずば
鳥さのわからぬ
分……

その価値にも毒を
含んでおるのやも
しれぬのう……



そして銅の加工
は手が荒れ……

中々に作業が
進みませぬで
……



なるほど……

「緑」は毒
……か



されど
……



毒を含む物ほど
最高の味がする
も 真のこと

河豚の如く
にな







岐阜城攻めは
刻がかろう！

我らも備えが
出来次第 合流
すると伴に！

はっ！



景盛殿や十作に
今一つ頼みが
ある！

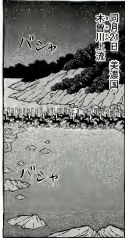


この先の戦を
勝ち抜くために
武器を造って欲しい
のだ！

なに……

最高の匠衆たる
その方らには
難作もない事よ！

同月22日 美濃国
未曾川上流



福島勢なぞ
待たず 落城
せしめるのだ!!



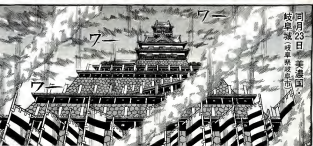
急げ

!!!

邪魔する者は
池田兵で
あろうが
ブチ殺せ!!!



同月23日 美濃国
岐阜城(岐阜県岐阜市)







この有^{あり}幸^{さい}意^いが
池田に助命を
願^{ねが}うてやろう

織田の
よしみでな



今さら敵の
情けなど
受けぬ！

そう
突っ張るな



切^き支^し丹^{たん}のお前が
自決を潔う思うて
おるはずなからう

死に装束すら
左様に着飾る
お前の事……

まだまだ
遊び足りんの
だろ……？





今俺に
岐阜城内の宝が
在り処を救えい

織田の名の下に
集めた名物群の
隠し場所をな



真に池田は
助命を……!?

条件が
ある



な……

何故有楽斎殿
に……!?

男までも
みい……



池田 福島らが
城内へ入ってから
では遅いのだ……

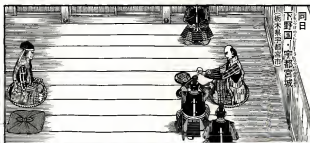
奴らは血縁で探し
出し 由緒ある
名物は他家の物と
なる……

それで良い
のか 秀信



同月24日 美濃國・石田三成本營
大垣城 岐阜縣大垣市







これより父
家康が命により
……

この秀忠と
三万八千の兵は
中山道にて西上
致す

上杉勢への備え
お頼みし申す
結城殿



いまだ父の判断に
不満が御ありか？



いえ……

天下分け目の
前線に赴けぬ事を
怒ったは……

我が家臣の
手前にて



家康様の跡継ぎが
件に 皆憤って
おるゆえ

されど
それがしは……

その眼を見て
すでに納得して
おり申す



泰平が世に
必要な
防衛ぎは

中納言秀忠様
であると



かたじけのう
ござる



我ら 腹違いの
兄弟なれど……

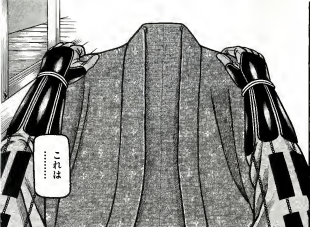
目をかけられ
るは弟ばかり
……

憎しみを
抑えられぬ日も
ござった

今も悔しさは
消えぬが……

会ってみて
胸に落ちて
しもうたら

こちらの
負けにて





兄上の忠義
しかと受け取り
申した

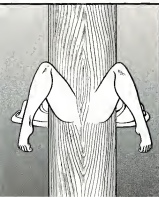
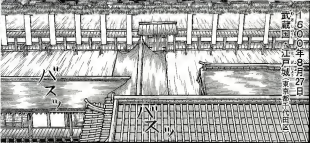
結城殿の

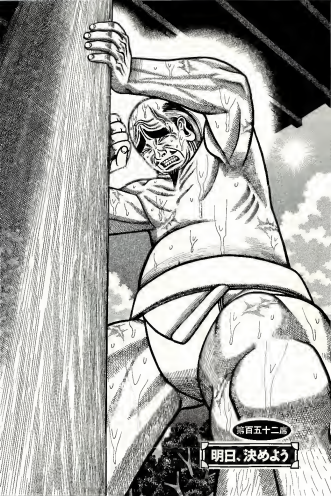


この秀忠
世にはびこる
毒を排し

この袖の如く
堅実強固な体制を
築き申す

1600年8月27日
武蔵国江戸城(東京都大田区)





第百五十二話

明日、決めよう





早い……!!

早過ぎる……!!

いまだ諸將への
情状工作が充分
でないというに
……!!



されど……

このまま江戸に
留まっておれば
……

樺島らが奥を
煮やし 大坂へ
進撃するは必定
……!!



さすれば戦の
功績は 外様
のものなり……

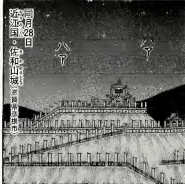
我が徳川で
戦後の采配を
振れのうなつて
しまう……!!





同月28日

近江国・佐和山城 近江守・山崎



ああつ





すでにお持ち
です……



欲しい
……

殿下の如き
力が……



一体あなた
以外に……



大坂には西方の
大軍が集まり
つつあり……

さらにあなたの
要請を受けて
下されば……

秀頼様や
毛利輝元様までが
大坂より出陣
なされるのです……

誰がこれ程の
御方たちを
動かせましょう
や……



忠義に厚き者が
除かれる世で
あつては
なりませぬ……

私もここを
命懸けで守り
ますれば



次に佐和山へ
戻る時には……

必ずや家康が
首と共に

同月29日 摂津国大坂
大坂城西の丸（大阪市中央区）



なぜです
毛利様!!!



何故 共に出陣
して下さるの
です!!!

西軍総大将が
前線に来れば
士氣も高まり
ませぬ!!



ならば先に
釈明せい
宇喜多殿

前田殿が
西軍に付くと
謀った事を



た……

謀るなどと

大老の足並みが
揃っておらぬの
なら……

私も安易に
動くわけには
いかぬ!





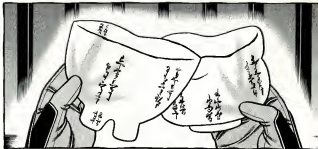
出陣はひとまず
見送ったものの
……

西軍総大将を
一旦引き受けた
以上……

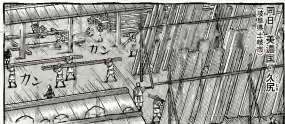
東軍へ付く
わけにはいかぬ
……

互いに生き残った
晩には……

うまい茶を
頂きますぞ
御茶頭殿……



同日 美濃国・久尻
（美濃陣土曜巻）







殿っ！

この弾薬は
いずこへ!!!

さうさと
元藏が許へ
運ばんか!!



だーですか
なあ

お戯れの所
失礼致します
織部助様



なに……うー

緑袖の藝が
欲しい……うー



左様……

大坂城の甲津口
を守っておると
何うた……



つかぬ事を
耳にしたのです
が……

あの
上田主水正様が
……

石田方へ付いて
しもうた……と



同年9月8日 本城甲斐口
上田主水正陣所 設け市中中央区

申し上げ
ます殿！

東軍の前田様と
加賀小松城に臨る
丹羽様との睨み合い
が……

いよいよ決戦の
様相を見せて
きたとの事！

ついでに丹羽長軍様
より 我ら上田勢へ
……

双方の兵力は
……？

援軍を頼みまし
との早馬が……
！！

丹羽軍は
三千！

前田軍は
二万を超えて
おると！



……

ここで出陣
すれば……

我らは完全に
石田方へ与した
事となる……

断るべき
です……

美濃への出陣を
断ったように
……

そうも……

そうも
参らぬ……

丹羽長重殿は
かつて俺が仕えし
長秀様の嫡子……

丹羽家には
ここまでの武人に
してろうた
忘れ難き恩がある
のだ









もはや待つて
はおれぬ

何があるうと
大坂まで
突き進まん



敵が待ち構える
であろう
東西の狭間

美濃は
関ヶ原を
抜いてな

1600年9月10日
信濃国 上田城 奥平・上田市

……が
退き刻です
秀忠様……



お持ちの袖を
ご覧あれ

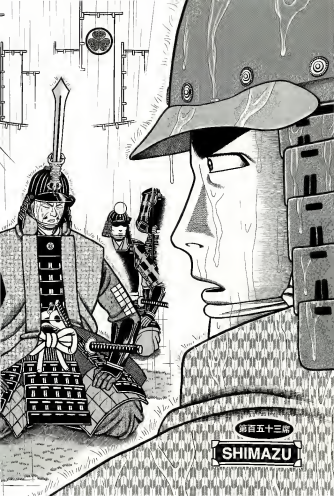
結城秀康様なら
如何するか
ご案じを



真田の陣る
上田城を南とせば
奥平土陣となり
ましうが……

大事が陣の小事に
これ以上
目をかけては
なりませぬ……

ようやく届いた
家康様の書状にも
西上を優先しろ
……と



第百五十三席

SHIMAZU



ちと申し
過ぎました

決して左様な
事は……



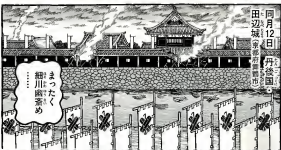
私のみの判断
には頼れぬと
申すか……？

榊原



我が本軍は
美濃へ急がん

真田が抑えに
森・仙石勢を
残す



同月12日 丹後国
田辺城(京都市西京区)

まったく
細川幽斎め





たかが五百の兵
で上等よ……

帝の勅命すら
受けぬのなら

我ら一万五千で
葬り去ってやる
のみ！



ただ……
義綱の玉子を死に
送りやうとした我らへの
怒りと……

並々ならぬ
戦への覚悟が
窺えるかと



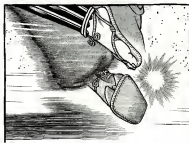
なに!!!

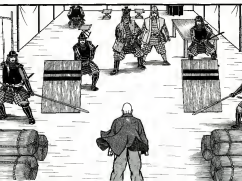


小野木様
!!!

幽斎が
城門を開き
こちらへ!!!



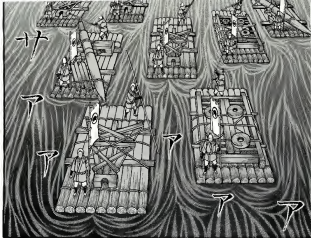
















そのために
ちと手を打って
倅に託しておる

それは



されどこの戦
墨々と勝てるか
どうか……

やはり東西
どちらの結束が
強いかが鍵よの
……



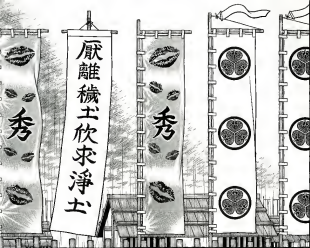
なに

以前も使った
手よ

少しは効き目が
あるとよいがの



同月14日早朝 美濃国・
赤坂（岐阜県大垣市）





家康が婆は
……!?

そこまでは
確かめられず
……



か……

かように速う
家康が美濃へ
入ろうとは……



金地に「秀」
とはふざけ
おって……

殿下の一文字を
用い 官軍を
気取ったつもり
か……!!



おそろくは
織部助の仕業
……

あの男は
大山崎の戦でも
左様な旗を誇り
……

丹羽様らの
聲を聞いた
と聞く……



頼む
島！



それがし
敵陣近くの
杭瀬川を突いて
みまする！

戦模様にて
家康が所在も
わかるかと！



されど
……

家康が赤坂に
おるとすれば
……

やはり大垣城
には目もくれず
大坂へ進む目算
では……



ふやふやありふり
夜襲をなすぞ
そなたがこわす



家康 やまがみ
くさくさ くさくさ
ふやふや ふやふや
そなた そなた







真の官軍たる
我々が 姑息な
手を使うて
如何する!?

織部助が旗を
用いる 徳川の
如き姑息な手を
……!!



第十四服終

「へうげもの」第14回は「モーニング」11年28号、30号、32号、34号、36・37合併号、39号、41号、43号、45号、47号、51号、12年1号に掲載された作品を収録しました。編集部では、この作品に対する皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。また、「モーニングKC」にはまとめてほしい作品がありましたら、編集部までお知らせください。

〈あて先〉

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

講談社 モーニング編集部「モーニングKC」係

なお、お送りいただいたお手紙・おハガキは、ご記入いただいた個人情報を合わせて
書留にお渡しすることがありますので、あらかじめご了解のうえ、お送りください。

★この作品はフィクションです。実在の人物、団体名等とは関係ありません。

モーニングKC-2075

へうげもの 14

2012年1月23日 第1刷発行（定価はカバーに表示してあります。）

著 者 やま だ よし ひろ
山田芳裕
©Yoshihiro Yamada 2012

発行者 清水保雄
発行所 株式会社 講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
電話 編集部 東京(03)3945-9155
販売部 東京(03)5395-3606
業務部 東京(03)5395-3603

印刷所 大日本印刷株式会社

本文製版所 豊国印刷株式会社

製本所 誠和製本株式会社

装 丁 シマダヒデアキ(Local Support Department)

講談社

- 本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を働き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に権利してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の範囲でも著作権法違反です。
- 著丁半・馬丁本は購入書店名をご明記のうえ、本社業務部までにお送りください。送付小杜負担にてお取り替えます。なお、この本についてのお問い合わせはモーニング編集部までにお問い合わせください。

歴代主要
キャラクター烈伝

古田織部と

へうげものの 侍

血で血を洗い、茶で茶を淹^{ツグ}く戦国乱世。
武と技の狭間で荒々しく生きる勇者たちがいた。
新田登場人物より、逆もすぐりの強面を一挙ご紹介する!!



黒川勘吉



松永久秀



古田織部



高山右近



荒木村重



明智光秀



織田信長



毛利輝元



山上宗二



千利休



内實



徳川家康



徳川忠興



豊生氏郷



黒田如水



徳生宗祖



織田有楽斎



伊達政宗



豊臣秀吉



小西行長



加藤清正



福島正則



佐竹義宣



小堀作介



徳川秀忠



藤堂高虎



前田利家

関ヶ原終戦!!
 へんげま 15巻
 '12夏、熱波必至
 発売予定にて候!!



上田重安



石田三成

TEA FOR UNIVERSE, TEA FOR LIFE

Hyouge Mono

14th
KODANSHA

Mad Dialect

The Damage Manual 2005

SEX MACHINE

JAMES BROWN 1970

POISON

BEYONCÉ 2008

明日があるさ

1963

Gates Of Eden

Bob Dylan 1965

My Brother Jake

FREE 1970

か行めくる書

1965

ワキヲツツ

1970

Wild Wild Life

TALKING HEADS 1987

クニヲツツ

1976

クニヲツツ

1976

クニヲツツ

2011

モーニング公式サイト <http://morningkcf.com>
モーニング公式アプリ <http://morningkcf.com>
モーニング公式アプリ <http://morningkcf.com>

2075

HYOUGE MONO SINCE 2002
MORNING KC



14



山田芳裕

YOSHIHIRO YAMADA

จึงพิสูจน์ว่าความสร้างสรรค์ทางศิลปะของโ

ดู!!